

こども環境学会の活動

1. 大会および国際シンポジウム

2004年5月の設立大会以来、毎年4月末に大会・国際シンポジウムを開催し、こどもの環境改善へ向けての提言を発表。参加者は、約1,000~1,500人で、全国から研究者や実践者が集まり、地域のこどもたちも参加します。

2004年設立大会「こどもと環境：都市化の中のこどもたち」

ロジャー・ハート（ニューヨーク市立大学）、ロビン・ムーア（ノースカロライナ州立大学）ほか。



第2回2005大会（東京）「こどもの安全と健康のための環境」

【提言】1.公園へのプレイ・ファシリテーター（屋外活動支援員）の配置。2.こどものあそび空間、地域コミュニティ空間としての道。3.こどもの育成にふさわしい住環境。4.学校を拠点とした地域コミュニティ活動。5.こどもを過剰な情報刺激から保護。

第3回2006大会（関西）「こどもと自然」



【提言】1.地域に根ざした身近な自然体験。2.自然のすばらしさと怖さを理解。3.自然の中での“名のない遊び”を大切に。

第4回2007大会（横浜）「こども・まち・おとな」

【提言】1.こどもが群れて遊べる都市（まち）。2.こどもとおとなが共に暮らせる都市（まち）。3.こども、家族に優しい都市（まち）。

第5回2008大会（東海）「こどものまなざしで」



【提言】1.こどもと夢を語ろう。2.おとながいっしょにあそぼう。3.こどものまなざしと個性を尊重。4.在日外国人のこども環境をより良く。5.こどもが自由に遊べる環境を保障。

第6回2009大会（千葉）「こどもの力」



【提言】1.こどもの力を信じる。2.大人はこどものドリームメーカー。3.こどもは未来社会を確実にするためのパートナーとしての意識啓発に努めること。ほか全12項。

第7回2010大会（広島）「感性のこどもたち」

【提言】1.環境というキャンパスに未来を描こう。2.身のまわりの体験を語り合おう。3.大人自身が感性をみがこう。4.こどもを見守る技術を。5.未来の平和に向けて語り継ごう。

「子どもたちに支援を！緊急集会」+2011東京集会

第8回2011年大会（東京）は、2011年3月11日に発生した東日本大震災のため中止し、「子どもたちに支援を！緊急集会」を4月23日に開催し、2011年度集会（東京）を12月11日に開催。

第9回2012仙台大会「復興再生：

子ども参画による子どもに優しいまちづくり」



【提言】1.一人のアイデアから。2.こどもの役割；意見を言う、大人の役割；子どもの声を聴く。3.計画から実行へ。4.地域資源を見出し、環境価値を高める。5.たくましく生き抜く力（レジリエンス）を育てる。6.こどもが「今」を生きる時間を大切に。

第10回2013大会（東京）「こどものコミュニティカ」

【提言】1大人が遊び心を。2楽しいまちづくり。3プレイストリート。4新しい試みに挑戦。5子どもが他者と関わる場。6コミュニティカを広げる空間。7社会制度への発言。8大人が変革の風を。

第11回2014大会（京都）「こどもと歴史・伝統」

日本の伝統文化の何を「未来につなげて」ゆくのかをテーマに開催。

第12回2015大会（福島）「子どもが元気に育つ復興まちづくり」

震災4年が経過した福島で、子どもの視点での復興をテーマに開催。

2. セミナーおよびシンポジウム等

こども環境学の確立を目指す「こども環境学セミナー」を年4回程度開催し、その他こども環境に関わるシンポジウムや講演会を開催しています。会員外の参加も可能です。



3. 研究会等活動

こども住環境研究会、こみち研（こどもとコミュニティのための道研究会）、園庭・幼児教育等施設研究会、遊具環境研究会、青年会、東海こども環境研究会、こども環境研究会関西、北陸こども環境研究会、あそびをせむとや生まれけむ研究会、などが設置されています。



4. こども環境学会賞

こども環境に関する優れた研究、デザイン、活動などを顕彰いたします。論文・著作賞、デザイン賞、活動賞の3部門。入会と同時にご応募もいただけます。ぜひご応募ください。



5. 委員会活動

以下の委員会活動を中心に学会の事業活動を展開しています。総務、学術・研究、環境活動、環境活動、出版、企画事業、セミナー、学会誌編集、国際、地方など

6. 学会誌の発行

学会誌・論文集「こども環境学研究」年3回発行。学術資料と時事の話題や活動報告などをあわせ、研究者と実践者の両方にお読みいただけます。学術論文を随時受け付け、査読後掲載。一般投稿記事も募集しています。会員外の購読も受け付けます。

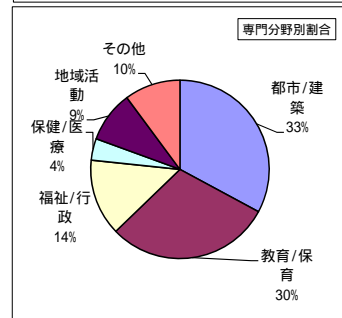
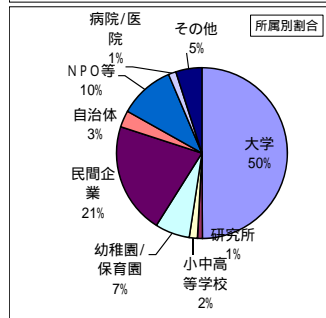
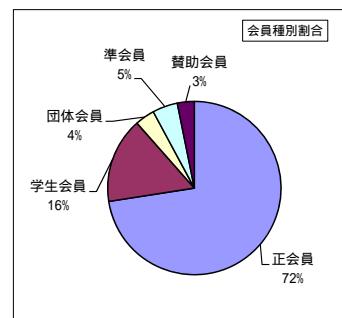
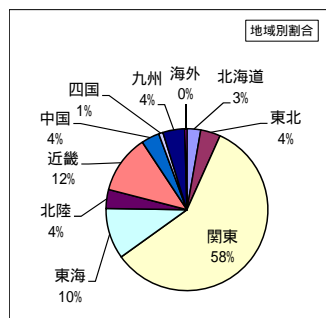


会員の概況について

2015年4月1日現在の会員数は1,222人です。地域別では関東の方が59%ですが広く全国の方々にご参加されています。所属別では、大学・研究所が51%、民間企業が22%、学校（小中学校や幼稚園・保育園）が8%、NPO等活動団体が10%で、自治体が3%などです。専門分野別では、都市・建築関係33%、教育・保育関係29%、福祉・行政関係が14%、地域活動関係9%、保健・医療関係4%などです。多様な方々の参加する学会であり、学際性や多様性を活用しハードからソフトにいたるあらゆる面で「こどものためのよりよい環境づくり」に向けて活動しております。ご入会手続きはホームページよりお願いします。

「こども環境学研究」バックナンバー

- 設立大会「都市化の中のこどもたち」 Vol.1-No.0 2004.05
設立大会プログラム+予稿
「都市化の中のこどもたち」 Vol.1-No.1 (CN-1) 2005.04
設立大会および国際シンポジウム記録。R・ムーア、R・ハート
「こどもの安全と健康のための環境」 Vol.1-No.0 (2005.04)
2005大会（東京）I・ロバーツ、R・ムーア
「こどもの遊び環境を考える」 Vol.1-No.2 (CN-2) 2005.08
2005大会記録。「だれがつくる？こども環境」進士五十八×仙田満
「こどもと自然」 Vol.2-No.0 (CN-3) 2006.04
2006大会（関西）S・ハンフリーズ、松沢哲郎
「こども・まち・おとな」 Vol.3-No.1 (CN-6) 2007.04
2007大会（横浜）G&M・グリユナウズル、A・クローマ
「こども環境と家庭」 Vol.3-No.2 (CN-7) 2007.09
2007大会記録。対談「こどもの心の架け橋」増田修治×汐見稔幸
「こども環境とスポーツ」 Vol.3-No.3 (CN-8) 2008.01
対談「バランスよい成長とスポーツ」朝日健太郎×神谷明宏
「こどものまなざし」 Vol.4-No.1 (CN-9) 2008.04
2008大会（東海）T・ギル（英）、K・マロン（豪）ほか
「こども環境と表現」 Vol.4-No.2 (CN-10) 2008.08
2008大会記録。対談「こどもの表現」高見のつば×汐見稔幸
「こども環境とメディア」 Vol.4-No.3 (CN-11) 2008.12
対談「メディアを使ったキッカケづくり」石戸奈々子×小澤紀美子
「こどもの力」 Vol.5-No.1 (CN-12) 2009.04
2009大会（千葉）K.マロン、R.サトクリフ、R.ロレンツォほか
「こども環境と学術」 Vol.5-No.2 (CN-13) 2009.09
2009大会記録。対談「生きる力と学ぶ力」寺脇研×高橋勝
「こども環境と母親」 Vol.5-No.3 (CN-14) 2009.12
対談「こども環境と母親」吉岡マコ×大日向雅美
「感性的こどもたち」 Vol.6-No.1 (CN-15) 2010.04
2010大会（広島）予稿。N.アジミ、J.フレドリッヒ、伊東豊雄
「こども環境と食」 Vol.6-No.2 (CN-16) 2010.08
対談「関係性を取り戻すために」大村直己×小澤紀美子
「こども環境と父親」 Vol.6-No.3 (CN-17) 2010.12
柏木恵子×神谷明宏。下村一、堀川佐渡、白神晃子、依田敬子
「2011年大会（東京）に代えて」 Vol.7-No.1 (CN-18) 2011.08
2011年集会（東京）プログラム+予稿
「東日本大震災こども支援」 Vol.7-No.2 (CN-19) 2011.09
東日本大震災にかかる行動計画、震災復興支援活動など
「こども環境と健康」 Vol.7-No.3 (CN-20) 2011.12
復興プラン提案協議・知恵と夢の支援。対談：鳥居俊×仙田満
「復興再生：-子どもに優しいまちづくり-」 Vol.8-No.1 (CN-21) 2012.4
(CN-21) (2012.4) 2012大会（仙台）予稿。ヘレン・ウーリーほか
「こども環境と祭り」 Vol.8-No.2 (CN-22) 2012.8
2012大会報告。「こども達の出番」久保田裕道×高橋勝
「こども環境と保育制度」 Vol.8-No.3 (CN-23) 2012.12
復興支援活動報告。「保育環境」丸山裕美子×今井豊彦×木村歩美
「こどものコミュニティ力」 Vol.9-No.1 (CN-24) 2013.4
2013大会（東京）予稿。J.デビス、K.ウォン、汐見稔幸ほか
「こども環境と医療」 Vol.9-No.2 (CN-25) 2013.9
2013大会（東京）報告。「癒しの環境」副島賢和×原寛道ほか
「子育てを社会化する」 Vol.9-No.3 (CN-26) 2013.12
関西等合同セミナー報告。対談「社会的親」杉本厚夫×岸裕司ほか
「こどもと歴史・伝統・未来につなげて」 Vol.10-No.1 (CN-27) (2014.4)
2014大会（京都）正高信男、ジョナ・サルズ、仙田満ほか
「復興と子どもの参画」 Vol.10-No.2 (CN-28) (2014.8)
2014大会報告。「子どもが考えた方がいいよ」佐藤慎也×星野諭
「アートで何が出来る？」 Vol.10-No.3 (CN-29) (2014.12)
10周年記念行事。「芸術士のいる保育所」太田絵美子×及部克人



2015年度 役員

代表理事：仙田 満（東京工業大学 名誉教授）
会長：松本 直司（名古屋工業大学 教授）
副会長：五十嵐 隆（国立成育医療センター 総長・理事長）
神谷 明宏（聖徳大学 准教授）
定行 まり子（日本女子大学 教授）
中島 興世（子育てと教育を考える首長の会 事務局長）
理事：小澤 紀美子（東京学芸大学 名誉教授）
福岡 孝純（日本女子体育大学 招聘教授）
専務理事：中山 豊（こども環境学会事務局 事務局長）
監事：河原 啓二（姫路市 医監兼生活審議監）
佐久間 治（九州工業大学 教授）
宇久田 進治（宇久田会計事務所 所長）

2015年度 社員

五十嵐隆、織田正昭、神谷明宏、木下勇、木村歩美、小澤紀美子、汐見稔幸、島田隆道、仙田満、高木真人、高橋勝、谷本都栄、玉田雅己、富樫豊、中島興世、新田新一郎、福岡孝純、松本直司、宮本照嗣、三輪律江、吉永真理

（以上21名、50音順）



公益社団法人

こども環境学会

Association for Children's Environment

〒106-0044 東京都港区東麻布3-4-7 麻布第1コーポ601

Tel 03-6441-0564 / Fax 03-6441-0563

e-mail: info@children-env.org

Web-site: http://www.children-env.org

事務局担当：中山・當本

事務局は、2013年12月24日に上記に移転しました。